

1 目的

校長の職務並びに教育活動について研究を深め、資質の向上を図るとともに、教育課程の取組を通して沖縄の現状を直視し、小学校教育の本質に立って、より充実した教育活動の展開を図る。

2 大会主題・趣旨

(1) 大会主題

「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

～心豊かでたくましく生きる力を育み、活力ある学校づくりを推進する校長の理念と指導性～

(2) 趣 旨

沖縄県小学校長会は、全国連合小学校長会、九州地区小学校長協議会と歩調を合わせ、研究主題を設定し、実践的な研究を積み重ねてきた。

新学習指導要領の前文では、これからの学校には、「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とあり、そのためには、学校と社会が理念を共有し、連携・協働する「社会に開かれた教育課程」の実現が重要であることが示された。

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが成人して社会で活躍する頃には我が国は、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、絶え間ない技術革新等による社会構造等の環境が大きくまた急速に変化し、予測困難な時代となっている。

このような急激な社会の変化の中では、一人一人が自らの能力や可能性を信じ、学習したことを生活や社会の中で課題解決に生かすことのできる力が求められる。

また、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越えていく生きる力の育成も課題である。

こうした状況を踏まえ、これからの教育は、学校と社会とが認識を共有化し、変化が激しく未来の予測

が困難な時代に向かって、自らの力で未来を切り拓き、ともに生きる豊かな社会を創り出すことのできる人間を育成する教育を実現しなくてはならない。このような時代の要請や社会の変化に対応するため、価値観の違いや変化を前向きに受け止め、自らの力で未来を切り拓く日本人の育成を主意に設定された令和2年度からの全国連合小学校長会の新研究主題のもと、本大会の副主題を「心豊かでたくましく生きる力を育み、活力ある学校づくりを推進する校長の理念と指導性」とし、新たな視点で研究を深めていくこととした。

「心豊かでたくましく生きる力」とは、自己肯定感を高め、未来に向かう自信と意欲に満ち、あらゆる他者など様々な価値を尊重する態度を表し、急速に変化する社会に対応し、経験のない困難に粘り強く立ち向かおうとする姿と捉える。また、「活力ある学校」とは、「夢や希望が輝く学校」「自己肯定感が高まる学校」「学び・育ちが実感できる学校」「学校・家庭・地域が一丸となって取り組む学校」と捉える。

ところで、令和2年度当初よりかつて誰もが経験したことのない新型コロナウイルス感染症予防のための「新しい生活様式」による新たな学校経営が求められ「With コロナ」から「Post コロナ」へと大きな転換期を迎えた。そこで、校長は学校経営の責任者としての使命感と確固たる教育理念をもち、教育課題解決に向けアイデアとリーダーシップを強く発揮しなければならない。校長は学校教育の果たすべき役割・使命の大きさを真摯に受け止め、各分科会での研究協議を深める中で、優れた実践を共有し、活力ある学校づくりを推進する経営者として、新たな時代に求められる理念と指導性を究明していきたい。

- 3 主 催 沖縄県教育委員会 沖縄県小学校長会
- 4 共 催 浦添市教育委員会
- 5 後 援 沖縄県市町村教育委員会連合会 那覇地区市町村教育委員会協議会 沖縄県中学校長会
沖縄県PTA連合会 那覇地区PTA連合会
- 6 期 日 令和3年11月10日(水)・11日(木)・12日(金)
- 7 会 場 全体会：浦添市 アイム・ユニバース てだこホール(小ホール)

■分科会会場

第1分科会：アイム・ユニバース てだこホール多目的1 A

第2分科会：アイム・ユニバース てだこホール多目的1 B

第3分科会：アイム・ユニバース てだこホール多目的2

第4分科会：アイム・ユニバース てだこホールマルチメディア室

第5分科会：浦添市中央公民館 視聴覚室

第6分科会：浦添市ハーモニーセンターホール

第7分科会：浦添市ハーモニーセンター第1・第2研修室

第8分科会：浦添市中央公民館大ホール

第9分科会：浦添市美術館 講堂

第10分科会：浦添市中央公民館 第1研修室

■教育懇談会会場 アイム・ユニバース てだこホール（市民交流室）

8 日程

日程は別添 Excel にあり

9 運営方針

- (1) 研究の成果が本県教育の発展、学校運営上の課題解決の重要な手がりとなるようにする。
- (2) 研究は地区会員全員の共同研究のもとに広がりと深まりのあるものとする。
- (3) 大会運営の効率化を図るため、各部が適切な分担をして推進する。
- (4) 前年度までの反省を生かし、新しい課題を追究する。
- (5) 県小学校長会の主体性を堅持しつつ、他機関との連携を密にする。
- (6) 分科会は 分科会Ⅰ（全国・九州共通課題）、分科会Ⅱ（全分科会共通課題）で運営する。
- (7) 記念講演会の企画・立案は担当地区が担い、実施に当たっては、県総務部との連携を密にする。

なお、講師選定にあたっては義務教育課からの推薦も受ける。

- (8) 各分科会の研究協議内容は、大会集録にまとめる。なお、大会集録は冊子にせず、電子媒体で校長会事務局で保管する。

10 大会主題及び分科会研究主題設定の視点や運営方法

- (1) 沖縄県教育の現状と課題、県民の期待と要望を把握し、その解決を目指す。
- (2) 県小・中学校長会の運営方針に基づいて設定する。
- (3) 研究大会は、令和3年度全国、九州地区の大会主題や分科会研究主題及び研究の視点を配慮し設定する。

・小学校の分科会は、全連小（13分科会）・九小協の分科会（9分科会）研究主題に関連させて設定する。なお、本県の喫緊の教育課題（学力向上推進）に対応するため、本県研究大会においては、第10分科会（学力向上推進）を設定する。

※第71回全連小京都大会より大会主題が変更され、それに関連し第71回九小協大分大会の研究主題・協議題も変更となる。

(4) 教育内容の質的転換が期待される教育課程について研究を深める。

(5) 分科会は、分科会Ⅰ（全国・九州共通課題）と分科会Ⅱ（全分科会共通課題）で構成し、分科会Ⅱにおいては、沖縄県の課題を共通課題として全分科会で協議する。なお、共通課題は、5月に開催される第1回校長会役員と行政との連絡会後において協議する。6月初旬までには、全会員に共通課題を提示し周知を図る。

(6) 分科会Ⅱは、共通課題に対し自由闊達な意見を述べる場とする。特に、まとめは行わないが、共同研究者からの振り返りを求める。

1.1 研究の方向性

(1) 主題に迫る上での学校経営上の課題は何かを明確に

○校長としての認識

○校長としての課題把握

(2) 課題を解決するために

○校長としての視点（戦略的リーダーシップ）

・ ストラテジー（戦略。長期的な課題の解決、長期的な目標の達成）として、課題をどう捉え、どう考えたか。

・ 同時にタクティクス（戦術。個々の実践での戦術。短期的な課題の解決、短期的目標の達成）の視点から、何をなすべきであると考えたのか。

○課題解決の過程での課題と対応

・ 課題解決の過程で新たに発生した課題とその対応。ここでも、校長として、どう考え、何をなすべきかの視点から記述することが大切である。

(3) これらの取組の結果・成果及び課題は何か

○児童・生徒の変容 ○教師の変容 ○保護者の変容 ○学校と地域との関係の変容 ○その他

・主題を踏まえ、上記の視点等から事実を通して成果及び課題を述べる。

(4) 研究協議のまとめ

○校長としての課題の捉え方、認識はどうであったか。

○校長としての「戦略と戦術」はどうであったか。

・上記2点を客観的な視点から考察する。

1.2 分科会研究主題・協議題一覧

分科会領域	研究主題	協議題
第1分科会 「経営ビジョン」	先見性のあるビジョンに基づく創意ある学校経営の推進	①未来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定 ②学校経営ビジョンに基づく創意ある学校経営の推進
第2分科会 「組織・運営」 「評価・改善」	学校経営ビジョンの具現化を図る組織づくりと運営並びに学校教育の充実を図る評価・改善の推進	①学校経営ビジョンの具現化に向けた活力ある組織づくりと学校運営の推進 ②自ら未来を拓く力を育む教育を確かなものとする学校経営の評価・改善
第3分科会 「知性・創造性」	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント	①「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組 ②しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育活動を実現するカリキュラム・マネジメント
第4分科会 「豊かな人間性」 「健やかな体」	豊かな人間性と健やかな体を育むカリキュラム・マネジメント	①新たな社会を見据えた人権教育と豊かな心を育てる道徳教育の推進 ②心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指す教育活動の推進
第5分科会 「研究・研修」	学校の教育力を向上させる研究・研修の推進	①教職員の資質・能力の向上を目指した研究・研修体制の充実 ②キャリアステージに応じた資質・能力や学校経営への参画意識の向上を図る研修の推進
第6分科会 「リーダー育成」	これからの学校を担うリーダーの育成	①学校教育への確かな展望をもち、行動できるミドルリーダーの育成 ②時代の変化をとらえる能力と豊かな人間性を身に付けた管理職人材の育成
第7分科会 「学校安全」 「危機対応」	命を守る安全教育・防災教育の推進及び様々な危機への対応と未然防止の体制づくり	①危機回避能力を育む安全教育・防災教育の充実と地域や関係機関との連携を図った安全教育・防災教育の推進 ②いじめや不登校等に適切に対応できる体制の整備と高い危機管理能力をもつ組織・体制づくり
第8分科会 「社会形成能力」	社会形成能力を育む教育の推進	①社会の発展に貢献しようとする資質・能力・態度を育む教育活動の推進 ②自立・協働・創造の心を育むキャリア教育の推進
第9分科会 「自立と共生」 「連携・接続」	自立と共生を図り、実践的な態度を育む教育の推進並びに家庭・地域等との連携	①子どもの自立を図る特別支援教育の推進 ②家庭・地域と連携し充実した教育活動を展開できる学校づくりの推進
第10分科会 「学力向上推進」	新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む、校長の理念と指導性	①「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトII」を推進する具体的方策の在り方 ②家庭・地域社会と連携した学力向上推進の在り方

1.3 分科会研究分担

分科会	領域	平成30年度 (島 尻)	令和元年度 (国 頭)	令和2年度 (中 頭)	令和3年度 (那 覇) ※小単独開催	令和4年度 (島 尻)	令和5年度 (国 頭)	令和6年度 (中 頭) ※中単独開催	令和7年度 (那 覇)
	九小協開催県	鹿児島	宮 崎	大 分	福 岡	長 崎	佐 賀	沖 縄	福 岡 (全国大会)
第1分科会	「経営ビジョン」	国 頭	国 頭	中 頭	中 頭	国 頭	国 頭		中 頭

第2分科会	「組織・運営」 「評価・改善」	那 覇	島 尻	島 尻	那 覇	那 覇	八重山	九小協 沖繩大 会 ◆第3 分科会 で中頭 地区提 案 ※中学校 単独開催	八重山
第3分科会	「知性・創造性」	国 頭	那 覇	国 頭	国 頭	中 頭	中 頭		那 覇
第4分科会	「豊かな人間性」 「健やかな体」	中 頭	中 頭	那 覇	島 尻	島 尻	宮 古		国 頭
第5分科会	「研究・研修」	島 尻	国 頭	国 頭	宮 古	中 頭	那 覇		那 覇
第6分科会	「リーダー育成」	中 頭	宮 古	宮 古	八重山	八重山	島 尻		島 尻
第7分科会	「学校安全」 「危機対応」	島 尻	中 頭	那 覇	那 覇	宮 古	島 尻		島 尻
第8分科会	「社会形成能力」	那 覇	那 覇	中 頭	中 頭	島 尻	国 頭		国 頭
第9分科会	「自立と共生」 「連携・接続」	宮 古	八重山	八重山	島 尻	那 覇	那 覇		宮 古
第10分科会	「学力向上推進」	八重山	島 尻	島 尻	国 頭	国 頭	中 頭		中 頭

①特ゴシック体は、九小協大会での提案地区

②宮古・八重山地区は、一つの分科会を担当し、他の地区は、二つの分科会を担当する。なお、宮古地区会員数の関係から分科会においては1名参加の場合もある。その際、分科会レポートなしの場合も有り得る。

③九小協での提案地区を優先する。研究の深化に鑑み、可能な範囲で2カ年間の継続研究とするが九小協との関連から変更も有り得る。※令和3年度は、全九中沖繩大会の為、小学校は単独開催となる。

1 4 分科会研究分担・会場及び各地区参加者割り当て

分科会 会場	領 域 提案地区	国 頭	中 頭	那 覇	島 尻	宮 古	八 重 山	合 計
第1分科会 アイム・ユニバース てだこホール多目的1 A	「経営ビジョン」 (中 頭)	4	7	5	4	1	3	24
第2分科会 アイム・ユニバース てだこホール多目的1 B	「組織・運営」「評価・改善」 (那 覇)	3	7	6	5	2	2	25
第3分科会 アイム・ユニバース てだこホール多目的2	「知性・創造性」 (国 頭)	4	6	4	3	1	2	20
第4分科会 アイム・ユニバース てだこホールマルチメディア 室	「豊かな人間性」「健やかな体」 (島 尻)	3	7	7	4	2	3	26
第5分科会 浦添市中央公民館 視聴覚室	「研究・研修」 (宮 古)	3	6	6	3	1	2	21

第6分科会 浦添市ハーモニーセンターホール	「リーダー育成」 (八重山)	3	7	6	3	2	2	23
第7分科会 浦添市ハーモニーセンター 第1・第2研修室	「学校安全」「危機対応」 (那覇)	4	7	4	4	2	2	23
第8分科会 浦添市中央公民館大ホール	「社会形成能力」 (中頭)	3	6	4	3	1	2	19
第9分科会 浦添市美術館 講堂	「自立と共生」「連携・接続」 (島尻)	3	6	8	3	1	2	24
第10分科会 浦添市中央公民館 第1研修室	「学力向上推進」 (国頭)	4	7	3	5	2	2	23
合 計		34	66	53	37	15	22	228

15 分科会の研究主題・協議題

第1分科会 「経営ビジョン」 (中頭)

先見性のあるビジョンに基づく創意ある学校経営の推進

〔趣旨〕

今日、知識基盤社会やグローバル化の進展は、政治や経済、文化などのあらゆる領域に影響を及ぼしており、社会構造そのものが大きく変化し、学校教育に寄せる期待も多様化している。このような中、新学習指導要領が改訂され、これからの時代に求められる教育を実現するためには、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、学校と社会との連携及び協働のもと、教育活動が展開されていくことがより一層求められている。そのためには、「社会に開かれた教育課程の編成」が重要となり、学校経営においては、社会の変化を見極めて、「自ら未来を拓く」教育を着実に推し進めていく必要がある。

また、校長は、保護者や地域住民の声を確実に捉えながら、これからの社会を生き抜く子どもの望ましい姿

を思い描き、その育成に向け、先見性のある経営ビジョンを策定することが重要となる。さらに、校長の強いリーダーシップの下、教員の職務に対する誇りと使命感を大切にしながら、未来へ向かって夢と希望をもち、たくましく生きる力をもった子どもを育てる教育活動を組織的・計画的に進めていかなければならない。

本分科会では、これからの未来をたくましく生きる力をもった子どもを育てるための明確な経営ビジョンを掲げ、マネジメント能力を発揮し、学校や地域の特色を生かして、子ども一人一人の夢と希望の実現に向けた創意ある学校経営を推進するため、その具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 未来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定
- ② 学校経営ビジョンに基づく創意ある学校経営の推進

第 2 分科会 「組織・運営」「評価・改善」（那 覇）

学校経営ビジョンの具現化を図る組織づくりと

運営並びに学校教育の充実を図る評価・改善の推進

〔趣旨〕

今日、知識基盤社会やグローバル化の進展等により、社会状況は急激に変化している。このような中、校長は、「自ら未来を拓く」教育を実現するために掲げた学校経営ビジョンの実現に向け、活力ある組織・運営体制を築いていく必要がある。そのためには、学校組織を刷新し活気ある組織づくりを行うとともに、教職員一人一人が協働意識と参画意識をもって組織を機能させるようにしていかなければならない。

また、校長は、学校経営ビジョンに基づく確かな学校経営と教育実践を進めるとともに、絶えずその評価・改善に取り組み、学校教育の更なる充実に向けていく必要がある。そのためには、評価をマネジメント・サイクルの重要な観点として位置付け、改善に向けたより実効性のあるものとしていかなければならない。さらには、教職員評価システムも踏まえつつ、自校の教職員に対する適切な指導や助言が、個々の意識改革や資質・能力の向上、学校組織全体の成長・発展につながるようにしていかなければならない。

本分科会では、校長の示す学校経営ビジョンの具現化を図るための組織づくりと運営並びに学校経営の充実を図る評価・改善の具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 学校経営ビジョンの具現化に向けた活力ある組織づくりと学校運営の推進
- ② 自ら未来を拓く力を育む教育を確かなものとする学校経営の評価・改善

第 3 分科会 「知性・創造性」（国 頭）

知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント

〔趣旨〕

今日、インターネットで情報を容易に得ることができたり、AI（人工知能）の実用化が進んだりしており、暮らしはもとより産業や経済などあらゆる分野の変革の動きが加速し、知識基盤社会やグローバル化も確実に進展している。このような中、子どもには、自他としっかり向き合いながら自分を見失うことなく、社会の変化に柔軟に対応し、自信をもって自らの夢と希望の実現に向け、たくましく生き抜く力を身に付けていくことが求められている。

また、このような中、新学習指導要領も単なる知識や技能の獲得に留まらず、時代を先取りし新たな課題に果敢に挑戦しながら、主体的に解決することを求めている。そのため、学校教育では、子どもに多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化に対応し乗り越えることができる柔軟な思考力や判断力、表現力を身に付けさせることが必要になる。さらには新しい見方や考え方で新たな価値を創造できる資質・能力を獲得させていくことが不可欠であり、そのためのカリキュラム・マネジメントの確立が強く求められている。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、子どもが豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるように、しなやかな知性と豊かな創造性の育成を目指す「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラム・マネジメントについての具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組
- ② しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育活動を実現するカリキュラム・マネジメント

第 4 分科会 「豊かな人間性」「健やかな体」（島 尻）

豊かな人間性と健やかな体を育むカリキュラム・マネジメント

〔趣旨〕

今日、グローバル化の進展に伴い、文化や習慣、価値観の多様化が進む中、未来を担う子どもが自らの夢や目標の実現を図るために、学力や体力の向上はもちろん、自律的態度の確立を促すこと、互いを思いやり尊重する態度や感動する心など豊かな人間性を育むことが大切である。そのため、学校においては、全教育活動を

通して体験活動を推進することや、人権教育や道徳教育を基盤とした心の教育の充実を図ることが強く求められている。

また、近年の急速な社会環境や生活環境の変化は、物質的な豊かさをもたらしている反面、精神的なストレスの増大や生活習慣病の増加など、心身両面で問題を生み出している。学校においても、体力・運動能力の低下やアレルギー性疾患、いじめや不登校等、子どもの心と体の健康に関わる様々な課題が生じている。校長としては、このようなことを踏まえ、課題解決を進める指導体制の構築と社会の変化に対応した取組の充実を図る必要がある。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、豊かな人間性を育むための心の教育の実践、並びに未来をたくましく生き抜くための体づくりと健康づくりを推進するためのカリキュラム・マネジメントについて、具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 新たな社会を見据えた人権教育と豊かな心を育てる道徳教育の推進
- ② 心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指す教育活動の推進

第 5 分科会 「研究・研修」 (宮 古)

学校の教育力を向上させる研究・研修の推進

〔趣旨〕

知識基盤社会やグローバル化が進展し、社会構造に大きな変化が見られる中、「持続可能な社会」を実現させるために必要な資質・能力の育成や、多様な人間関係を構築していく力や習慣の育成等が重要となっている。このような社会の急激な変化や時代のニーズに応え、学校教育の使命・責務を果たすためには、学校の教育力

の向上・充実が急務である。

これらのことを踏まえ、校長は、確かな先見性と洞察力を身に付け、自校の課題を明らかにしながら、教職員が教職に対する使命感や責任感、探究心をもち、職務やキャリアステージに応じて求められる資質・能力を生涯にわたって高めていけるよう展望をもたせるとともに、学校経営への参画意識が高まるように研究・研修体制を充実することが重要である。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、教職員にキャリアステージを意識した展望や学校経営への参画意識をもたせ、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立とその推進について、その具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 教職員の資質・能力の向上を目指した研究・研修体制の充実
- ② キャリアステージに応じた資質・能力や学校経営への参画意識の向上を図る研修の推進

第 6 分科会 「リーダー育成」 (八重山)

これからの学校を担うリーダーの育成

〔趣旨〕

今日、学校には、「自ら未来を拓く」教育の実践や様々な教育課題への対応が求められ、その解決に向け、学校の教育力を高めていくことが重要になっている。学校教育目標等の具現化に向けて、教職員一人一人の力量を高め、学校組織としての教育力を向上させていくことが学校経営の重要課題である。そのためには、学校を組織的に運営していくための大きな役割を果たすミドルリーダーの存在がますます重要になっており、その育成が急務である。

また、校長は、教職員一人一人の特性を把握し、必要とされる資質・能力を具備した人材を発掘して、意図的・計画的に育成していくことが重要である。特に、組織的な学校運営を推進していくためには、学校全体を統括・指導する有能な管理職人材の存在が不可欠となり、このような人材を計画的に育成していく必要がある。その際、校務分掌を通して幅広い経験をさせるとともに、経営感覚を育むことなどが重要である。

本分科会では、学校教育への確かな展望と実践力を身に付けたミドルリーダーや時代の変化をとらえる能力

と豊かな人間性を身に付けた管理職人材を育成するため、その具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 学校教育への確かな展望をもち、行動できるミドルリーダーの育成
- ② 時代の変化をとらえる能力と豊かな人間性を身に付けた管理職人材の育成

第 7 分科会 「学校安全」「危機対応」（那 覇）

命を守る安全教育・防災教育の推進並びに様々な危機への対応と未然防止の体制づく

〔趣旨〕

未曾有の大被害をもたらした東日本大震災以降、国民の防災意識は確実に高まってきている。近年は、台風や局地的豪雨による土砂崩れや洪水、火山噴火等の自然災害が毎年各地で起きるとともに、猛暑による熱中症も頻発し、その対策も喫緊の課題となっている。また、通学路等における不審者の声かけ事案やわいせつ事案、交通事故など、子どもが被害者となる事案や事故の発生も後を絶たず、いじめ、不登校、生徒指導上の問題も依然として深刻である。さらに、新型コロナウイルス感染症とともに生きる新しい生活様式の確立が大きな課題となっており、その対応の在り方が問われている。そのため、学校では、組織的・計画的な安全教育・防災教育を推進するとともに、多様化・深刻化する危機に備え、日頃から危機管理体制の整備、危機発生時の未然防止、危機発生時の対応、並びに再発防止等の適切な対応を行っていくことが重要である。

校長は、教職員の危機管理意識をより一層高めるとともに、自然や社会の変化を踏まえた危機管理体制の確立を図ることが求められている。そのためには、家庭・地域・関係機関との連携をより一層強化し、組織的に迅速かつ的確に対応できるようにしていかなければならない。

本分科会では、子どもの安全安心を確保し、危機を回避する能力を育む教育の充実と、学校危機への計画的・組織的な対応を進め、危機に強い学校づくりの具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 危機回避能力を育む安全教育・防災教育の充実と地域や関係機関との連携を図った安全教育・防

災教育の推進

- ② いじめや不登校等に適切に対応できる体制の整備と高い危機管理能力をもつ組織・体制づくり

第 8 分科会 「社会形成能力」 (中 頭)

社会形成能力を育む教育の推進

〔趣旨〕

これからの社会は、「将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会」「A I (人工知能) 等の導入により、子どもが今なりたい職業は将来存在しないかもしれない社会」など、産業・経済の構造的変化、雇用体制の多様化・流動化による社会環境の大きな変化が予測される。このような社会の到来は、子ども自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしている。とどまることなく変化する社会の中で、子どもが夢や目標をもって積極的に自分の将来を切り拓いて生きていくためには、社会の変化を恐れず粘り強く前進し、失敗しても諦めず変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠である。

そこで、学校においては、これからの社会を創りあげていくために必要な知性と創造性ととも、豊かな人間性を身に付けさせるために、他者を認めつつ、他者と協力することの大切さを教え、よりよい社会を協働して形成しようとする態度や能力を育む必要がある。

校長は、キャリア教育等の視点を取り入れた教育活動により、社会的・職業的自立に必要な基礎的・汎用的能力等、子どもに生きる力の基礎を積極的に身に付けさせなければならない。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、特別活動を要としつつ教科等で身に付けた知識・技能等を基に、よりよい社会の形成に向け、主体性をもって社会に参画し、課題解決を図る能力や態度などを育むための具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 社会の発展に貢献しようとする資質・能力・態度を育む教育活動の推進
- ② 自立・協働・創造の心を育むキャリア教育の推進

第 9 分科会 「自立と共生」「連携・接続」(島 尻)

自立と共生を図り、実践的な態度を育む教育の推進並びに家庭・地域等との連

〔趣旨〕

今日、学校においては、子どもが障がいの有無にかかわらず共に生活する中で、分け隔て無く相互に人格や個性を尊重し合う教育が求められている。とりわけ、特別な支援を要する子どもに、その教育的ニーズに応え、将来の自立に向けての基礎を培っていかなければならない。そのためには、校長が特別支援教育に対する理解を深め、関係機関との連携に基づく支援体制の充実を図っていくことが大切である。

また、規範意識や他者とのコミュニケーション力が十分身に付いていないことが、いじめ等の問題行動の要因の一つになっており、主体的に地域に関わろうとする子どもの育成並びに生徒指導上の課題へ対応するためには、学校・家庭・地域等が一体となった地域基盤を再構築することが求められている。

本分科会では、子どもの自立を図るための特別支援教育並びに子ども一人一人の将来を見据え、家庭・地域等との連携を推進するための具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 子どもの自立を図る特別支援教育の推進
- ② 家庭・地域等と連携し充実した教育活動を展開できる学校づくりの推進

第 10 分科会 「学力向上推進」(国頭)

新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む、校長の理念と指導性

〔趣旨〕

今日、国際化・情報化など社会の変化と科学技術の進展には目覚ましいものがあり、今後一層、その変化や進展が加速されるものと予測される。このような急激な社会の変化の中で、学力向上においては、これから求められる資質・能力を明確にし、それらを育成するための授業の在り方等を構築していく必要がある。

新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」の実施を通し、沖縄県では、総括目標「幼児児童生徒一人一人に生きる力の基礎となる新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む」長期目標「持続可能な社会の創り手となる幼児児童生徒の育成」を目指すために、これまでの本県の学力向上推進の成果と課題から「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」「組織的な関わり」

を学力向上推進の重要な視点と位置付けた。この 3 つの視点を手がかりに「沖縄県学力向上推進 5 年プラン・プロジェクト II（学びの質を高める授業改善・学校改善）」をより戦術的に推進していくこととし、具体的には「方策 1，質的授業改善 方策 2，組織的共通実践 方策 3，発達の支援 方策 4，学校組織マネジメント 方策 5，学校連携・地域連携」として取り組んでいくこととした。

本分科会では、それらを基に校長のリーダーシップの下、国や県及び各学校のこれまでの取組の成果や課題を踏まえ、新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力の育成を目指し、より具体的で実効性のある教育活動の在り方に関する校長の理念と指導性についての具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 「沖縄県学力向上推進 5 年プラン・プロジェクト II」を推進する具体的方策の在り方
- ② 家庭・地域社会と連携した学力向上推進の在り方

1 6 分科会研究分担、役員及び研究の進め方等について

- (1) 司会者、提案者、記録者は各分科領域担当地区が担当する。(提案者 1 名、司会者 2 名、記録者 2 名)
- (2) 各分科会の運営委員は、会場地区（那覇）が担当する。
- (3) 分科会への地区会員の参加は、提案する分科を主とし、各分科に参加する。
- (4) 分科会提案地区の研究部長は、提案分科会が二つの協議題のうちどちらについて研究を進めるか決定し、5 月中に県研究部長（宮里 晋（牧港小））まで報告する。

報告がまとまり次第、県研究部長は各地区研究部長に周知する。

(5) 各地区の研究報告書のまとめ方

- ① 分科会提案地区：校長会指定の原稿 4 ページにまとめる。

※原稿執筆要領、留意事項 様式は別紙を参照のこと。

※分科会提案資料（原稿）提出日 **9 月 2 日（木）** までに完了する。

- ② 分科会提案地区以外：校長会指定の原稿 A 4 版 2 ページ（両面刷 1 枚）にまとめる。

※事前資料提出 **9 月 16 日（木）** までに 2 部（共同研究者用）を各地区研究部でまとめて県事務局へ提出。

※当日持参資料部数は、各分科会参加人数プラス 5 部。

(6)各分科会の司会者、提案者、記録者、(学校名、氏名)、各分科会への参加者名簿(学校名、氏名)の県事

務局への各地区からの報告は、**6月3日(木)**までに完了する

※ 全ての提出物は期限を厳守

17 校長会研究大会(全国・九州・沖縄) 開催地・担当地区割当計画
 (1) 沖縄県小・中学校長研究大会

年度	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
担当地区	国頭 中単独	中頭	那覇	島尻	国頭	中頭 ※新型コロナウイルス 防止の為に 参集しての大会 は中止	全九中沖縄大会 (小単独大会) 小：那覇	島尻	国頭	九小協沖縄 大会 (中単独開催)

※ 令和3・6年度は、全九中、九小協沖縄大会に包含するため、単独大会とする。

(2) 九州地区小学校長協議会研究大会・全国連合小学校長会研究協議会研究大会

年度	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	
九小協大会	開催県	沖縄	熊本	佐賀(全)	鹿児島	宮崎	大分	福岡	長崎	佐賀	沖縄 8/5.6.7
	・分科領域 ・担当地区	島尻 第1-1	八重山 第3-2 国頭 第5-2	中頭 第6分科会 (提案・司 会・運営 を担当)	那覇 第2-1 島尻 第7-2 宮古 第9-1	国頭 第1-2 中頭 第4-2 那覇 第8-2	島尻 第2-2 宮古 第6-2 八重山 第9-2	国頭 第3-1 那覇 第7-1 中頭 第8-1	島尻 第4-2 八重山 第6-2 宮古 第7-2	国頭 第1-1	中頭 第3-2

	議長	宮古									
全連小大会	開催県	山口	高知	佐賀	北海道	秋田	京都	石川			
	担当県	熊本 長崎	佐賀 鹿児島	九州各県 第6分科 (沖縄)	沖縄 宮崎	大分 福岡	長崎 熊本	鹿児島 佐賀			
	分科領域				八重山						

- ※ 担当地区順 国頭 →中頭 →那覇 →島尻 →宮古 →八重山
- ※ 九小協と全連小の発表のある年度は九小協→全連小と地区順を決定する
- ※ 令和2年度全連小京都大会より
新大会主題「自ら未来を拓き ともに豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

(3) 全九州地区中学校長会研究大会・全日本中学校長研究大会

年度	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
全九中	開催県 福岡 全国大会	宮崎	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	沖縄 8/4.5.6	福岡	大分 (全国大会)	宮崎
	・分科領域 担当地区	第1分科	八重山 第2① 国頭 第4①	那覇 第3① 島尻 第5①	宮古 第6②	八重山 第2② 国頭 第5②	中頭 第1②	島尻 第1①	宮古 第5①	全日中 大分大会
全日中	県担当	大分 熊本	宮城	東京	鳥取	群馬	和歌山	静岡	北海道	八重山 第1②
	分科領域		中頭 第8 分科				那覇 第4 分科			

- ※ 担当地区順 国頭 →中頭 →那覇 →島尻 →宮古 →八重山
- ※ 全九中と全日中の発表のある年度は全九中→全日中と地区順を決定する
- ※ 令和3年度全日中静岡大会より
大会主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

18 業務分担一覧

	大会事前準備	大会当日の業務	事後の業務
開催地区	1 会場借用・申請(全体会場・分科会会場、他)	1 受付(要録配布、出席簿)の確認	1 関係者へのお礼
	2 会場設営・席づくり(式典会場、分科会会場、他)	各地区事務担当者を行う	2 実行委員会総括
	3 浄書(諸表示等)	2 湯茶・弁当配布計画	3 収録後、テープは県事務局へ
	① 式典・全体会の表示(来賓、大会役員、講師、提言者、発表者、司会等)	3 式典関係	4 来賓・大会長等の挨拶文は県事務局へ
	② 会場案内(各事務所長、共同研究者、会員席)	放送機器、照明等、ステージの準備、国歌斉唱関係、挨拶文の受理	5 アンケート実施とまとめ
	③ 来賓控室 ④ 会員名札作成	4 接遇関係(来賓)	
	⑤ 分科会場(分科会担当者、参加地区会員)	5 水差し・おしぼり	
	⑥ 受付関係表示 ⑦ 会場案内関係	・教育長講話・記念講演	
	4 湯茶・弁当の配布計画等	6 大会記録(テープ録音取り)	
	5 放送施設の準備	・開会式 ① 教育長講話	
	6 盆栽(盛り花)、水差し・おしぼり等	・記念講演	
	7 消耗品(表示用等)準備	・全体会 ② 閉会式	
	8 接遇関係	7 講師対応・謝礼とお礼(花束・記念品等準備)	
	9 教育懇談会の計画・運営(持ち方、表示関係)等		
	10 講演講師の推薦・連絡調整・謝礼金(講師への依頼状は県事務局から送付)		

県 総 務 部	<ul style="list-style-type: none"> 1 大会組織 2 大会役員構成と委嘱 3 大会宣言文作成 4 記念講演関係(講師の選定等) 5 運営要領の作成 6 広報関係等の連絡 7 研究紀要に基づく発表の世話 8 全体協議会の運営及び部・委員会発表者との打合せ 	<ul style="list-style-type: none"> 1 大会全体会の運営 2 宣言文報告 3 記録関係(開催地区と連携) <ul style="list-style-type: none"> ①開会式・閉会式・教育長講話 ②記念講演 	<ul style="list-style-type: none"> 1 大会の総括 2 次期開催地区への引継の準備
県 研 究 部	<ul style="list-style-type: none"> 1 大会の企画(主題・趣旨・分科会テーマ) 2 大会までの会合スケジュール 3 研究分担 4 大会開催要項・要録の発行、大会主題趣旨 5 大会当日の日程・業務分担作成 6 分科会運営委員会(事前打合せ)の運営 	<ul style="list-style-type: none"> 1 全体会・分科会の運営 <ul style="list-style-type: none"> ①分科会参観・配車等 ②来賓の接遇関係 2 大会集録の資料収集・保管 3 講師の送迎(開催地区と調整) 	<ul style="list-style-type: none"> 1 大会要録
教 育 庁	<ul style="list-style-type: none"> 1 分科会共同研究者の編成と依頼 2 予算獲得(指定旅費等) 3 来賓及び大会役員の接遇関係 4 各学校長への大会参加への公文発出 	<ul style="list-style-type: none"> 1 接遇関係(式典への案内等) 2 教育長挨拶の原稿 3 分科会参観、懇談会への案内等 	
県 事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> 1 本部事務局会議 2 諸会合の調整・世話 3 会場地区との連携 4 予算措置と出納 5 各校長への通知 6 各種礼状 7 関係者への案内状・依頼状 8 マスコミ手配 9 県教委との連携 10 会員出席名簿作成 11 大会当日の受付の連絡調整(各地区2名) 12 記章・胸章の準備(大会前日、開催地区担当へ) 13 分科会記録用紙の準備(//) 14 国旗・県旗・会旗準備(//) 15 録音テープ準備(//) 16 開催要項、運営要領、大会要録等の編集・印刷 	<ul style="list-style-type: none"> 1 本部の庶務関係 2 会計担当する事項の確認・相談 3 出席簿の準備、まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 1 関係者へのお礼 2 大会の総括 3 次期大会引継の準備(1月中)